

社会科

NAMI

中学社会

ナビプラス



ポートフォリオを活用した 学習方法と学習評価

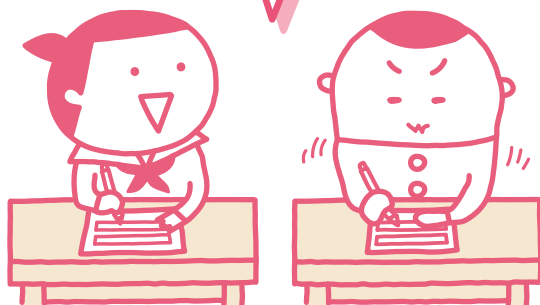
—様々なレベルでの活用を意識して—

立命館大学教授

角田将士

ポートフォリオを
授業で活用するには？

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更
または削除する場合があります。

※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。



日本文教出版

ポートフォリオを活用した 学習方法と学習評価

— 様々なレベルでの活用を意識して —



I 新三観点とポートフォリオ

平成29年告示の中学校学習指導要領（以下、「現行学習指導要領」と略記）において、各教科で育成をめざす学力（目標）が、①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力等」、③「学びに向かう力・人間性等」という三つの柱に整理された。そして、これらの目標に準拠した評価を行うために、目標①については「知識・技能」、目標②については「思考・判断・表現」、目標③については「主体的に学習に取り組む態度」という三つの観点が設定された。特に目標③については、「感性や思いやり」等、教科学習としての評価には馴染まず、個人内評価を通じて見取るべき部分も含まれていることから、教科学習と連動した観点としては、「主体的に学習に取り組む態度」が設定されている。

「主体的に学習に取り組む態度」については、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりす

るために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要とされている¹⁾。具体的には、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料として用いることなどが想定されている。ペーパーテスト（単答・論述）で見取ることができる「知識・技能」や「思考・判断・表現」とは異なり、「主体的に学習に取り組む態度」は、生徒の継続的な学習への取り組みの中から見取るべきものである。そのため、学習の中で生徒が作成した作文やレポート、作品等を蓄積したものを意味する「ポートフォリオ」は、評価のための有益な材料となる。

一般的にポートフォリオを活用した学習方法・学習評価のあり方は、下記のように整理できる。

- ①**学習目標の設定**：教師と生徒との間で学習のねらいを共有し、学習の見通しを持たせ、学習に取り組む意識を高める。
- ②**学習の展開**：教師は適切な学習課題を設定し、学習活動を組織する。
- ③**ポートフォリオの作成（②の中で適宜）**：生徒は、学習成果をポートフォリオにまとめる。例えば、作文やレポート、作品等が想定される。
- ④**ポートフォリオの評価**：教師は生徒のポートフォリオを評価する。その際、学習目標に準拠して、生徒個々の到達度を見取っていく。生徒が作成した作文やレポート、作品等の内容や質、反省や振り返りの質等を総合的に評価する。
- ⑤**振り返りとフィードバック**：生徒は自分のポートフォリオを振り返り、自己評価を行い、教師からのフィードバックを受け取る。この過程を通じて、生徒は自己評価のスキルを発展させていくことになる。教師は生徒と一緒にポートフォリオを振り返り、学習状況や学習成果についてのフィードバックを提供する。このフィードバックは、生徒が自己評価や自己反省を行うための指針となる。また教師は生徒の成長を把握し、次の学習の指針を示す。

このようにポートフォリオを活用することで、学習成果を可視化することが可能になり、評価の妥当性や信頼性を担保することができる。生徒にとっても、振り返りを通じた自己評価の力、学習目標に照らして自らの学習状況をモニタリングし、自らの学びを調整していくことで、自己指導能力を向上させることができる。また、多様な学習成果を反映するため、評価に柔軟性を持たせることができ、一度のペーパーテストの結果だけでなく、学習に取り組む姿勢を評価することができるため、(特にペーパーテストが苦手な)生徒の学習意欲(モチベーション)を維持することにも繋がっていくと考えられる。

一方で、ポートフォリオを重視するからといって、日々の授業において、毎回のように生徒に作文を書かせたり、レポートを提出させたりすることは生徒にとって過大な負担となるだけでなく、教師にとってもそれらを評価していくことが大きな負担となろう。「評価疲れ」に陥らないようにするためにも、生徒にとっても、教師にとっても無理のない、持続可能なポートフォリオ評価の仕組みが不可欠となる。そうした視点から、筆者が着目しているのが、**One Page Portfolio (OPP) の取り組み**である。

OPPとは、基本的には、各単元²⁾に1枚の振り返りシートを作成し、毎時間ごとに、生徒自身が「本時の学習で一番大切なこと」だと感じたことを記述し、そ

れを教師がチェックすることで、生徒個々の学習の状況を確認し、単元のねらいの達成に向けた適切なフィードバックを行うとともに、「授業者のねらい」と生徒が感じた「本時の学習で一番大切なこと」との異同、特に「ズレ」から、授業改善に必要な情報を得ようとするものである³⁾。これまでも学習の振り返りとして、授業の感想等を記入させて、教師がそれをチェックし、フィードバックを行うことは一般的に行われてきていたと思われる。一方で、現行学習指導要領において求められる「主体的に学習に取り組む態度」の育成とその見取りは、一時間単位で達成できるものではなく、その意味で、これまで以上に「単元(内容や時間のまとまり)」を意識した授業づくりが求められており、ポートフォリオについても単元レベルで構想することが望ましい。ただ、OPPの場合、作文やレポート、作品等の多様な成果物を通じた評価に比べると一様な方略となるが、基本的に**単元毎に1枚のシートを作成していくという比較的取り組みやすいという点に加え、単元のねらいに即した振り返りとフィードバックを、学習の進行とともに行うことができるという点で優れた方略となる**。続くⅡでは、OPPを活用した中学校社会科における学習方法や学習評価のあり方について、特に歴史的分野での実践例を取り上げながら述べていくことにしたい。

Ⅱ OPP を活用した歴史的分野の実践例

一般的に中学校の場合、教科書の見開き2頁を1時間で教えるイメージを持っている教師は多いと思われる。実際にほとんどの教科書も見開きが1つの内容から構成されている。しかし、多くの教科書では、見開きごとに学習課題が設定されており、それらを単元内(編や章等)で繋げてみることで、その単元における「問いの構造」を見て取ることができる。そして、各見開きの問いに従って授業を構成することで、自然と単元の目標が達成できる構造になっていることがわかる。それらの工夫は、現行学習指導要領(第3 指導計画の作成と内容の取扱い)において、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学び

の実現を図るようにすること」とされており、単元レベルでの授業づくりに資するものとなっている。一方で、教科書に示される問いは、多くの学校で用いることができるように、事象を網羅する穏当なものとなっていることが多い。生徒の実態やレディネスを十分に把握した上で、思考を促すことができる魅力的な問いへとアレンジしていくことも意識したい。

こうした単元レベルの「問いの構造」を意識した歴史的分野におけるOPPの実践例として、小西信行氏(現 京都市立旭丘中学校教頭)の実践を紹介したい。

資料①は、「なぜ『大正デモクラシー』と名付けられているのだろうか?」という問いを軸に、この時代に起きた事象の網羅に終始せず、当時の社会状況を表し

資料① 単元における「問いの構造」を意識した OPP

歴史的な分野ー第5編近代の日本と世界ー第2章二度の世界大戦と日本ー2大正デモクラシーの時代ー

＜単元目標＞二度の世界大戦があった時代の特色をとらえる。

＜単元を貫く問い＞ **なぜ「大正デモクラシー」と名付けられているのだろう？**

単元を貫く問いへの、はじめの考え				
学習内容	学習課題	本時の学習で一番大切なこと	先生より	過程
1 政党政治の発展	政治における「大正デモクラシー」とは？			課題把握ー課題追究
2 社会運動の広がり	人々が求める「大正デモクラシー」とは？			
3 都市化の進展と大衆文化	文化における「大正デモクラシー」とは？			
単元を貫く問いへの、学習後の考え				
単元を貫く問いへの、「はじめの考え」と「学習後の考え」を比べて、思ったこと				
		課題解決		
		新たな課題		

9年__組__番 氏名_____ () 班

- I 【知識・技能】 おもに定期考査で評価します。
 II 【思考・判断・表現】 学習内容から最も大切なことを選び、なぜ大切なのかを説明しているか。単元を貫く問いに対して、事実を根拠に選択・判断し説明できているか。また、定期考査にも「思考・判断・表現」の力を問う問題を出し、評価します。
 III 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題について、自ら取り組んだり、すすんで話し合いに参加したりしているか。学習課題について、自分の考えをまとめようとしていたり、説明しようとしていたりしているか。

た概念である「大正デモクラシー」と、生徒がイメージする「民主主義」との異同について考えさせることを単元のねらいとして構想されたものである。小学校社会科で身につけた民主主義の概念と、大正デモクラシーにおける民主主義の概念を比較し、公的分野での国民権や選挙制度、議院内閣制等の学習に繋げていくことを想定したものである。

この単元では、単元を貫く問いに対するはじめの答えを記述した後、各時間の学習課題に取り組ませ、単元の最後に単元を貫く問いに対する考え、さらに自らの考えの変容を振り返らせるものになっていた。例えば、当初、「大正時代が、世界が帝国主義から民主主義に変わっていく起点となった時代だったから」といった素朴な考えを記していた生徒も、単元の最後には、政治だけではなく文化も含めた当時の社会状況を表した概念として捉えられるようになっており、さらに「ここから、また戦争になぜ戻るか、この先で見たい」といった具合に、次の時代の学習を見通した問題意識を醸成することができていた。

また、資料②は、小西氏を中心に、令和元年度の第52回全国中学校社会科教育研究大会で提案された授業におけるOPP（ワークシート）の事例である⁴⁾。この授業では「なぜ、秀吉が全国統一したとされるのだろうか？」という問いを軸に、中世から近世への時代の転換点について考えさせるものである。豊臣秀吉が行った施策の解説に終始しないよう、現行学習指導要領においても求められている「時代の特色や転換」に迫るような学習課題に対して、マトリックス形式のワークシートを使用して、「政治」「外交・貿易」といった項目ごとに秀吉が行った施策の内容を整理し、「どんな変化」の欄を考えることで、教科書にも示された「中世／近世」という時代区分の意味を捉えさせるというものであった。

数回の試行授業では、枠組みだけを示したワーク

シートを使用し、自由に記述させる方法を採用していた。その結果、生徒は項目ごとに学習内容を丁寧に整理していくものの、「どんな変化」の欄については、整理した個別的な知識を羅列する形で記述する傾向が強く、学習を通して考えた時代の特色やその転換について十分に表現できていないという課題が見られた。そこで提案授業に際しては、「どんな変化」の欄を空欄のまま提示するのではなく、記述のさせ方として、「…中世が、信長・秀吉の政策により…ようになった」という話型を設定することで、この欄を記入する際に、「楽市楽座令」「太閤検地」といった個別的な知識を用いることなく、例えば、「複雑で、混沌とした、バラバラであった中世が、信長・秀吉の政策により、武士の支配に統一されるようになった。」といった具合に、時代の特色や転換について説明せざるを得ないように改善された。それにより、変化や差異等の「視点」に着目して時代の特色やその変化を表現しやすくなっている。そして最終的に、「近世は中世に比べ、どのように変化したか、政治・外交・宗教・民衆のいずれかの側面から説明しなさい」、「政治・外交・宗教・民衆における変化から、中世から近世に変わったとされる理由を説明しなさい」といった問いにも取り組めるものになっていた。

資料①のように、単元を貫く問いを軸に、問いの構造を意識したOPPIは、歴史的分野に限らず、すべての分野・単元において活用可能であり、日々の授業づくりの際にも採り入れたい。また、資料②のように、各分野の固有の探究活動を下支えする、単元と単元を繋ぐOPPについても積極的に構想したい。もちろん、OPPの形式は固定的なものではなく⁵⁾、単元や授業のねらいに即して、柔軟にそのあり方を構想し、試行錯誤を繰り返す中で、生徒にとっても、教師にとっても使いやすいものへとブラッシュアップしていくことが求められる。

Ⅲ 様々なレベルでの活用も視野に入れて

「単元」や「単元と単元を繋ぐ」ことをこれまで以上に意識することを求めている現行学習指導要領の趣旨を踏まえた学習を進めていくためにも、Ⅱで紹介したように、OPPを積極的に活用していきたい。さら

に、単元レベルに留まらず、各分野や中学校社会科全体で、生徒の成長を見取っていくためにも、様々なレベルでのOPPの作成と活用も視野に入れたい。

図1は、単元・分野・教科レベルのOPPの関係性を

資料② 「時代の特色と転換」を意識した OPP

【歴史的分野】 第4編 近世の日本—《中世から近世へ》

<単元目標>時代が変わる様子を理解し、どんな出来事があれば時代が変わったとされるのか、理解する。

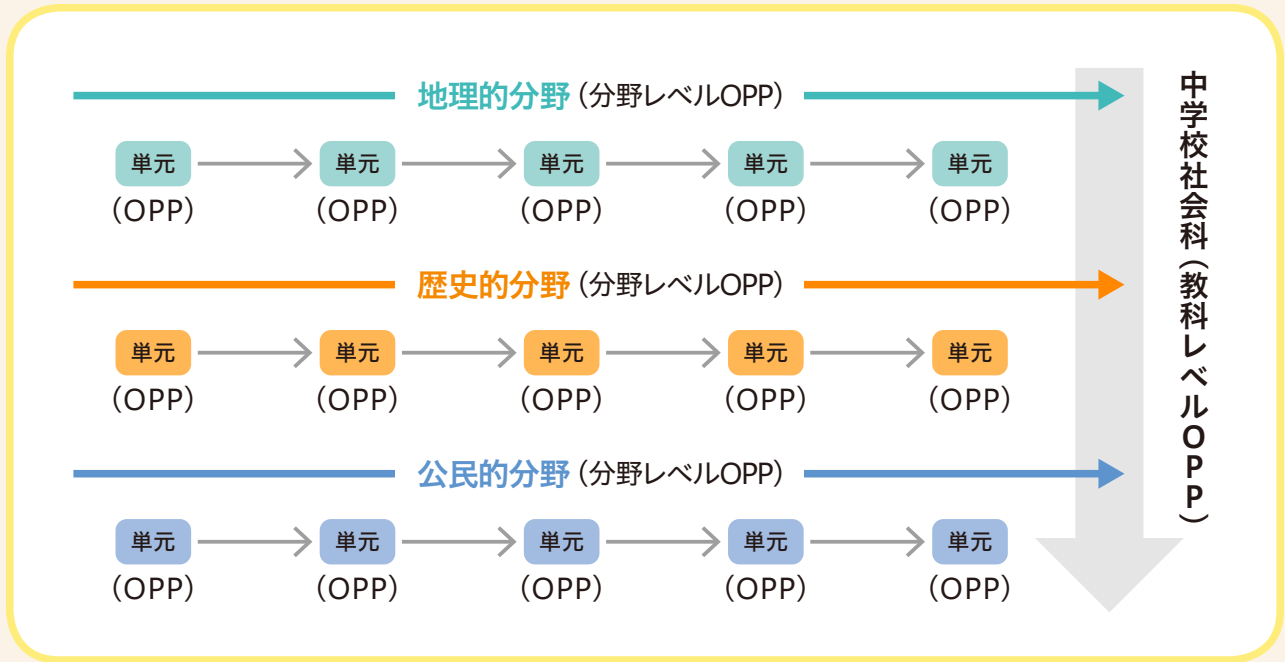
単元を貫く問い「なぜ、秀吉が全国統一したとされるのだろうか？」

2年 組 番 氏名

時代区分	中世		近世	どんな変化
	鎌倉・室町（戦国）	安土桃山		
		織田信長	豊臣秀吉	
政治	「鎌倉」幕府は御成敗式目、朝廷は律令、寺社は独自の法で支配を行う 「室町」戦国大名は支配地に分国法を制定	楽市楽座令：信長の支配地では、だれでも城下町で商売ができる 関所の廃止：移動がスムーズになる 堺や京都の自治を停止	太閤検地：全国の土地の所有者と、石高を確定 刀狩：武士と百姓、町人の身分の明確化	中世が、信長・秀吉の政策により、 ようになった。
外交・貿易	「鎌倉」元寇 「室町前期」勘合貿易の担い手が将軍→大名→有力商人と変化 「戦国」南蛮貿易：戦国大名や堺・博多などの自治都市の許可で貿易が行われる	南蛮貿易：信長は貿易を奨励 キリシタン大名や、堺や博多の商人が貿易を行う 信長は堺の自治を停止する	南蛮貿易：キリスト教の布教を禁止し、宣教師を追放。貿易の中心を長崎にする 朝鮮出兵：秀吉は九州の大名を中心に、大軍を朝鮮半島へ派兵。	中世が、信長・秀吉の政策により、 ようになった。
宗教	「鎌倉」民衆のための仏教が発展 「室町」民衆と宗教が結びつき大きな力を持ち、一向一揆が起こる	一向一揆の弾圧 比叡山焼き討ち キリスト教の保護	はじめキリスト教の保護→後に宣教師の追放と布教を禁止する	中世が、信長・秀吉の政策により、 ようになった。
経済・社会	「鎌倉」商品作物の増産→寺社の門前に定期市を開催、座がつくられる 「室町」村の自治組織である惣の結成：ときには守護や領主の支配を否定。 →土一揆や国一揆の発生	城下町の建設と楽市楽座により、信長の支配地では、だれでも城下町で商売ができるようになる。	太閤検地と刀狩により、兵農分離が進む 複雑であった土地制度が、太閤検地により整理される。	中世が、信長・秀吉の政策により、 ようになった。

※各欄には、授業者が想定した記述内容が示されている。

図1 単元・分野・教科レベルのOPP活用



(筆者作成。分野・教科レベルのOPPについては、担当教員間での共有、保管の工夫が必要となる。)

表したものである。単元レベルのOPPは、資料①のような構成をイメージする。分野レベルのOPPでは、最初に各分野における学習の目的や意義についての自らの考えや期待を記しておき、単元レベルよりも長いスパン、例えば、教科書における編(章)レベルでの振り返りを行いながら、最後にその分野の学習を通じて学んだことを振り返り、その意義についての自らの考えを記すようにしたい。そして、教科レベルのOPPでは、入学当初に中学校での社会科学学習の目的や意義についての自らの考えや期待を記しておき、卒業前に、


分野ごとに作成した3枚のOPPも通覧しながら、「なぜ地理/歴史/公民的分野を学ぶのか」「なぜ社会科を学ぶのか」という問いに対する自らの考えやその変容を振り返るようにしたい。そうすることで、社会科(地理・歴史・公民)を学ぶ意義をメタ認知させることができる。高等学校では、それぞれの領域について、より専門的(学問的)な内容を学ぶことになるため、中学校では、社会科全体の学びを振り返り、自分にとってそれらを学ぶ意義について考える機会を提供したい。

【註】

- 1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター編『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』東洋館出版社、2020年、pp.8-10.
- 2) 中学校社会科における「単元」の捉え方については、樋口雅夫『「指導と評価の一体化」の意義と具体的な評価のあり方』『社会科NAVI+』日本文教出版、2023年、に詳しい。
- 3) OPPについて詳しくは、堀哲夫『新訂一枚ポートフォリオ評価OPPA』東洋館出版社、2019年、等を参照されたい。
- 4) この実践については、角田将士『NG分析から導く社会科授業の新公式』明治図書、2022年、pp.190-197、においても詳述した。
- 5) 例えば、前掲1、p.90には、公民的分野のOPP(ワークシート)が例示されている。

【参考文献】

- 梅津正美編著『新3観点の学習評価を位置づけた中学校歴史授業プラン』明治図書、2022年
- 角田将士『NG分析で導く社会科授業の新公式』明治図書、2022年
- 樋口雅夫『新3観点の学習評価を位置づけた中学校公民授業プラン』明治図書、2022年
- 吉水裕也編著『新3観点の学習評価を位置づけた中学校地理授業プラン』明治図書、2022年



角田将士 (かくだまさし)

専門分野/社会科教育学
 主要著書/『戦前日本における歴史教育内容編成に関する史的研究』(風間書房、2010年)、『NG分析から導く社会科授業の新公式』(明治図書、2022年)、『学校で戦争を教えるということ 社会科教育は何をなすべきか』(学事出版、2023年)
 日本文教出版『中学校社会』教科書著者

社会科NAVI+ 中学社会⑫

日文教育資料[中学校社会]

令和5年(2023年)9月30日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33685

日本文教出版 株式会社
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

